



フェローシップ・ニュース

NO.36号

第15回 ドラッグ・コート専門家協会 トレーニング・カンファレンスに参加して

事務局長 尾田 真言

全米ドラッグ・コート専門家協会（NADCP=National Association of Drug Court Professionals）のカリフォルニア州アナハイムで開催された第15回トレーニング・カンファレンスに、2009年6月10日（水）から14日（日）までの5日間参加してきました。今年で参加は7回目になります。今年は、精神障害者コート&重複障害フォーラムが日曜日に開かれたため、5日間になりました。来年は2010年6月2日～5日にボストンで開催されますが、4日間にもどります。また、毎年1回は参加者全員が一同に会するランチタイムにチキン料理の出る食事会が開催されていたのですが、今年はなぜかなくなりました。夜のレセプションも含めてアルコールが一切提供されない点は変わりありませんでした。

今年のテーマは、「祝ドラッグ・コートの20年」でした。1989年にマイアミで第1号のドラッグ・コートが創設された後、この20年間に、2000以上のドラッグ・コートが全米50週に毎年増え続けています。2008年末でドラッグ・コートは2300を超えました。

NADCPはそして、ドラッグ・コート創設の5年後1994年に、最初の12のドラッグ・コートの関係者が設立したNPOです。このトレーニング・カンファレンスは、ドラッグ・コートを取り入れている裁判所のあらゆる関係者に、ドラッグ・コートに関する一定の水準を確保するための教育活動をしているものです。法理論、理念、治療プログラム、運営方法、薬物検査などさまざまな問題について、それぞれのエキスパートが講義を中心としたセッションを同時並行して実施していきます。

また、このトレーニング・カンファレンスに出席することで、数多くのドラッグ・コート参加者に会うことができます。

昨年3月に日本に来日して講演をしていただいたジェフリー・ロジネック元判事とは、6月9日（火）の夜、ホテルのエレベーター前でばったりお会いしました。今年は、彼とマイアミのドラッグ・コート・チームが優秀賞にノミネートされているということで、一昨年までと同様、マイアミからは多数の参加者が来ていました。

今年は、実際にドラッグ・コートを傍聴しに行くツアーが企画され、初日に、バス2台に分乗してアナハイムからカリフォルニア州オレンジ・カウンティのコミュニティー・コートに行ってきました。このセッションがあることは、トレーニング・カンファレンスの始まる前日のレジストレーション時にプログラムをもらうまでわかりませんでした。ざっと目を通しておいて良かったです。傍聴できたのは、退役軍人でPTSDを発症している薬物事犯者のためのベテランズ・コート（現在全米で4つあります）と通常の成人のドラッグ・コートでした。女性のウェンディー・リンドレイ判事が同じ法廷を担当していました。

この傍聴ツアーは、午前中のセッション会場で先着40名の受付のはずで、私は10番目くらいに登録できたのですが、結局傍聴人が60人以上もいたため、すべての傍聴席はうまりさらに空いているスペースにありったけのいすを並べて、なんとか全員が着席したところで裁判が始まり、被告人たちは別な部屋から呼び出されて、裁判官の前に立ちました。



ロジネック元判事とともに



オレンジ・カウンティの
コミュニティー・コート内にある
ドラッグ・コートの法廷

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディ
クション研究所

発行日
2009年9月1日

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所（Asia-Pacific Addiction Research Institute）の略称です。

全国のDARCやMACの各施設、福祉・教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

ドラッグ・コート専門家協会トレーニング・カンファレンスに参加して…尾田	1
DARS創設とパノットセミナー開催…尾田	2
家族のための連続講座番外編…町田	3
薬物事犯で逮捕された人のその後…蜂谷嘉治	4
三菱財団助成決定！シンポジウム「依存問題を発達問題から考える」	5
入寮者からのメッセージ…マジ	6
JICA本邦研修について	7
アパリからのお知らせ	8

この日は、何人ものクライアントが、それぞれ所定の段階を終えたということで、祝福され、お祝いのキータッグ、メダル等を裁判官から受け取っていました。最終段階が終わると、盛大な終了式が開かれます。

私が実際のドラッグ・コートを傍聴したのは、2002年（ホノルル、サンフランシスコ、ニューヨーク、マイアミ）と2003年（ロサンゼルス、ホノルル）でしたので、今回は6年ぶりに実物を見たこととなります。ドラッグ・コートでは裁判官が辛抱強く、被告人の薬物依存症回復プログラムの進捗状況をチェックして、励まし続けます。

毎年、毒物学者のポール・ケリー教授の薬物検査に関するセッションは人気が高く、すぐに満席になるのですが、今年は、ディスカバリーチャンネルのヒット番組「マイス・バスターズ」に扮してセッションを展開しました。ケシの種であるポピーシードを使ったベグルを大量に食べると、簡易尿検査でヘロイン反応が出てしまうので、ドラッグ・コートでは、ポピーシードを含む食品を食べてはいけないことになっているなど、実践的な知識がおもしろおかしく披露されました。その他、ドラッグ・コートに関する新情報は、<http://www.nadcp.org/>をご参照ください。

さて、日本では平成21年8月20日に警察庁組織犯罪対策部薬物銃器対策課から『平成21年上半期の薬物・銃器情勢』が発表されました。この統計書は、平成21年1月から6月末までの数値を公表したもので、その8頁に主な薬物事犯別の初犯者率が出ています。この数値から再犯者率（検挙したら再犯者だったという比率）を計算すると、覚せい剤事犯の再犯者率は57.9%となります。日本では最近、初犯の薬物自己使用等事犯では即決裁判が主流となり、逮捕されてわずか1カ月程度で、検察官が起訴した時点から執行猶予になることが分かっている裁判を経て自由の身になります。治療が必要な人たちでも逮捕後30日程度でそのまま野放しになっています。このまま即決裁判手続が利用され続けると、覚せい剤犯罪の再犯率はさらに上昇することになるでしょう。薬物依存症は病気であり、治療しなければ回復できないのに、なんらの情報提供もなされないまま、社会に戻るわけです。薬物依存者が一度も薬物を使ったことがない人たちに薬物を勧めることになるのですから、せつかく検挙した以上、薬物依存者が薬物をやめるために最大限の努力をする必要があります。

こうした治療を重視する観点からは、アメリカのドラッグ・コート制度は大変参考になります。ドラッグ・コートでは処罰することではなく、治療することを第一の目的にしているからです。

「DARSの創設とパイロット・セミナー開催」

事務局長 尾田真言

DARSとは薬物依存症回復支援の英語表記Drug Addiction Recovery Supportの頭文字をとって命名された任意団体です。平成21年5月31日に、龍谷大学矯正・保護研究センターで薬物依存症からの回復についての共同研究をしてきたメンバーらが集まって設立しました。私もその一員です。

将来、日本でドラッグ・コートが創設された場合に備えて、既存の回復プログラムについての情報を収集し、独自のモデル・プログラムを構築すること、そして、それらプログラム実施のための担い手を養成することを目標としています。平成21年7月31日～8月2日には、DARSの協力の下に龍谷大学矯正・保護研究センター主催の、薬物依存症者処遇プログラムを構築するためのパイロット・セミナー「薬物依存症者回復支援セミナー」が京都の龍谷大学の研修施設において開催されましたが、その際にDARSは多数のダルク施設長、ダルク・スタッフをはじめとする多様な人材を提供しています。

これまで薬物事犯でせつかく逮捕、勾留されても初犯なら執行猶予ですぐ出てきてしまい、再犯でも刑務所に入れられるだけで、薬物依存症の治療と呼べるようなプログラムが提供されてこなかった日本の刑事司法制度において、一日も早く、薬物依存症回復プログラムが本格的に導入されることを願ってやみません。



来年はボストンで開かれます



ポール・ケリー教授のセッション



アナハイムの街はいたるところで花の香りが漂っていました



歌や踊りありで、親睦を深めていました



アパリ理事長&日本ダルク代表 近藤恒夫も講師の一人でした



参加者全員でミーティングをしている様子です

家族のための連続講座

番外編

「芸能人の薬物事件に対する報道のあり方について」

カウンセラー 町田政明

空しい議論の繰り返し

酒井法子さんが薬物で逮捕されたことに対して、世間が大騒ぎするほど関心はありませんでした。又芸能人が捕まり、世間ではああでもないこうでもない、問題の本質に行き届かない、空しい議論が繰り返されているのだと思っていました。

大空真弓、三田佳子や中村雅俊の息子、桂銀淑、加勢大周、押尾学、相撲の若麒麟、古くは田代まさしの薬物問題、アルコール問題では草薙剛などたくさんの芸能人がアルコールや薬物の問題が何度も繰り返されて、テレビのワイドショーなどで大きく取り上げられますが、空しい議論がいつも展開されています。

生き立ちや仕事などのストレスなどという事の方が、世の中の理解が得られるのか受けがよいのか、私はただマスコミの無知からだと思えますが。大きく取り上げられるわりには、全くの無駄なことの繰り返しで、公共性のあるマスコミももう少し勉強してもらいたいと苦々しく思っていました。

しかし、マスコミばかりが悪いわけではなく、精神科に関わる医師や周辺の看護やカウンセラーでさえ知らないのです。普通の精神科に関わる医師や看護が知らないのは結構あることですが、依存症に関わっていても、勝手な思い込みできちんと依存症を理解していない人がたくさんいるのが日本の現状です。実に寂しい限りです。

実は30年ほど前に私も依存症のことを知らないでアルコール依存症に関わっていた時、本人のストレスとか精神的な問題だと思い、カウンセリングの真似事をしていましたが、全く効果がありませんでした。AAを知ってはじめて正しい治療方法を知ったのと、依存症の正体を知ることになりました。

それもたくさんのAAミーティングや本人の話を聞くことにより、だんだんと病気の本当の怖さや本質が見えてきました。

病気のことを本当に理解するのは、援助者でも身近に回復者を見たり、話を聞いたりしないと、その本質に到着できないだろうと思います。

ですから、マスコミが理解しないとんでも、当たり前のことかもしれません。しかし、徐々に依存症の知識を広めないで苦しむ人が後を絶ちません。

薬物依存症の正体

今回は悲劇のヒロインと思われた酒井法子さんが、突然逮捕状が出るということで急に展開が変わり、夫の発言やさらに子供の問題などで今後どう展開するのかとドラマを見るように、多くの国民はテレビに釘付けになったことと思います。

酒井法子さんの事件が、最初はいつもの芸能人の薬物問題と変わらないと思っていましたが、悲劇のヒロインから容疑者と言うことで、話題がさらに広がり、薬物問題に詳しい専門家や回復者本人の話などが入り、薬物依存症という病気がある事やドラッグコートのことも話される人もいて、今までの芸能人の薬物問題と違う展開で、この病気が社会に認識されるきっかけになれば良いと思います。

アメリカでは恥ずかしいことではなく病気として、芸能人も自ら治療施設に入り治療すると声明を出しております。確かにがんと同じく病気ですから、治療に行ってきますというのが恥ずかしくないように、薬物依存症は恥ずかしいことではありません。

日本も早く薬物依存症という病気がもっと社会で受け入れられて、隠すことなく、誰でも治療を受けられるようになると良いと思います。

家族の体験記 好評販売中！

『ギャンブル依存症に悩む
家族の物語
～絶望から希望へ～』

この本には、ギャンブル依存症で悩む8人の家族の体験が綴られています。これは真実の物語です。家族の貴重な体験を知ることができる貴重な一冊です。

定価：1,000円
発行：ホープヒル
(アパリで販売中)

薬物事犯で逮捕された人のその後・・・

警視庁愛宕警察署
刑事組織犯罪対策課銃器薬物対策係
蜂谷嘉治

1、警察庁の「薬物再乱用防止モデル事業」の開始

平成19年10月26日から警察庁が企画した「薬物再乱用防止モデル事業」が始まりました。

この事業は、いくつかの要件を満たした即決裁判により執行猶予判決を受けた者に対して同事業への参加を警察側が教示し参加を促すという初の試みとして注目を集めました。当初、6警察署に限られてスタートしたため、残念なことに当愛宕署はこの事業から除外されていました。

しかし、警視庁主管課との交渉のすえ、当署のみならずこの事業は警視庁全署に拡大されることとなり、当署から教示を受けたNさんが初参加となり、続けて2人、3人と該当者が同事業に参加することとなり、最終的に8名が参加するに至ったのです。

2、薬物乱用者、その家族との二人三脚

参加しても継続して参加しなければ全て無駄になってしまうことから、当署では参加者やその家族と連絡を取り合い、時には一緒になって同事業のプログラムに参加したり、その時の様子をその家族に伝えることにより、プログラムへの継続的な参加を支援してきました。

3、薬物乱用者家族の本音

乱用者の家族とふれあってみると、家族でありながら乱用者が失った信用の大きさは計りしれないものであることを思い知らされました。

このプログラムでは、毎週土曜日にダルクに集まり薬物使用の唾液検査を行っていましたが、それでも、夜寝るのが遅いとか食事をとらないとかの理由で警察に電話をかけたたり、相談に来たりする家族があるくらい、家族の乱用者への心配や悩みは止まるところがありません。

4、薬物再乱用防止支援のこれから

こうした中で本年3月31日をもってこの事業が廃止されてしまい、私どもへ乱用者の家族から「何とかして下さい」との声が寄せられ、再乱用防止を目的としたセミナーの実施に向けて検討することにしました。

しかし、前例のないことですからアパリやダルク又はNAを参考にしたり、事業に参加していた方々との会議を開き、「NO・DRUG愛宕」として、モデル事業参加者を役員としたグループを結成し、私ども捜査員がこのグループを支援する方法で、8月23日(日)に第一回のセミナーを開始する運びとなり、子供さんが夏休みの最中、8名の方が参加してセミナーを実施しました。

乱用者はもとよりその家族からも非常に好評を得て、継続的なセミナーの実施に向けた活動にしようとの参加者全員の声を基に、次回第二回を9月27日(日)に実施致しますが、既に12名の方が参加を希望しております。

小さなことからコツコツとまずは「NO・DRUG愛宕」が軌道に乗って、尻つぼみにならないよう乱用者のその後を支援する活動を充実させていきたいと考えます。

そして、こうした試みが1警察署から徐々に増えて行くことを強く希望しております。

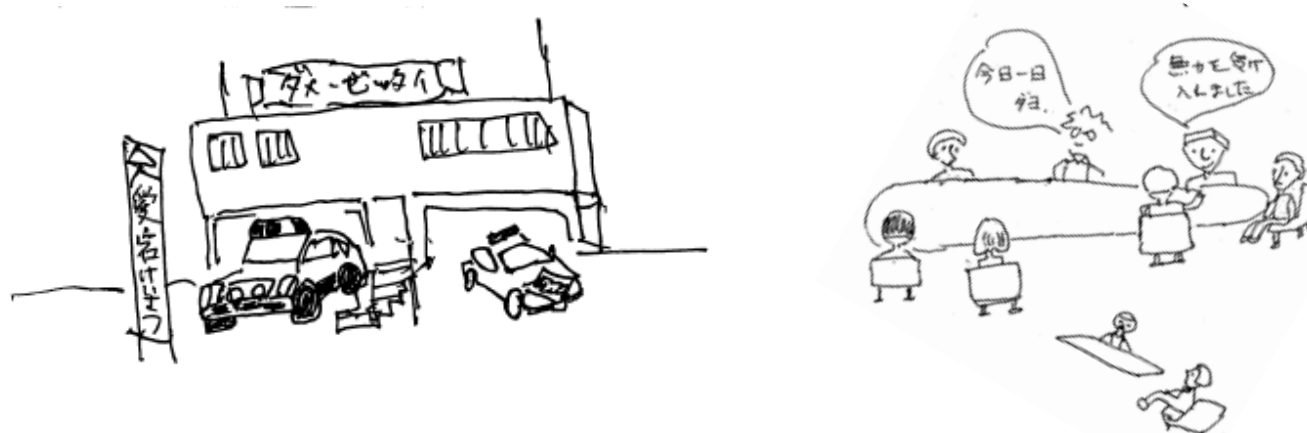
アパリ発行
「Born・Again (ボーン・アゲイン)」
体験談 販売中!

2005年5月に第2版が発売になりました。体験談が13人分収められています。アパリではこの本を拘置所や刑務所にいる人への差し入れ用として使っています。

定価：1,500円
(会員価格:1,000円)

お申込はメールかファックスで
FAX：03-5830-1791
メール：info@apari.jp
ご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。

イラストbyサム



薬物を使用する若年層へのアウトリーチ事業 三菱財団助成金決定！！

ソーシャルワーカー 古藤吾郎

若者を対象にした薬物乱用防止プログラム、いわゆる“ダメ。ゼッタイ。”キャンペーンなどが全国的に展開されているなか、ドラッグを使用する若者への介入を目指すプログラムというのは、現在ほとんどありません。ドラッグを使う若者は決して少なくないはずで、大学生による薬物事件がマスコミで報道されたりしています。ダルクやNAなどに参加する回復者のほとんどは30代以上で決して若者ではありませんが、そのうちの多くは、若いときからドラッグを使っています（あるいは、何かしらへの依存を抱えていたりします）。つまり、現在の日本社会において、若者を対象としたドラッグ使用を未然に防ぐプログラムや、ドラッグをある程度の期間使い続けてきた成人にフィットしやすい薬物再使用防止のプログラムはあるのですが、ドラッグを使い始めて日が浅い若者のためのものは、欠乏しているのです。

そもそも、ドラッグを使い始めたばかりの若者に介入するということは難しいことだと感じています。なぜなら、ドラッグを使いながらも学業・アルバイト・フルタイムの仕事など何とか社会生活を送れているときは、使用している本人は第三者の介入を必要としないでしょう。それでも、なにかのタイミングでドラッグを使うことに関連して、悩んだり、困ったりすることがあるかもしれません。そんなとき、少しでも敷居が低いと感じてもらえる話し相手となれることを目指しているのが、アパリの“ドラッグ・ダイヤル”です。そして、その“ドラッグ・ダイヤル”というものがあるのだということ、知らせていこうとするのが、今回助成金を受けておこなうアウトリーチ事業です。アウトリーチとは、サポートの対象となる若者が集まるところにこちらから出向くということです。この事業では“ドラッグ・ダイヤル”の告知カードを作成・首都圏内で配布し、携帯電話用のサイトの開設などを予定していますが、今後、対象者と同世代の若者たちと協働してこの事業を展開していきたいと考えています。

この記事を読んでくださった若い方（実年齢ではなく気持ち若い方、つまり、どなたでも大歓迎です）で、もしご興味があれば、ぜひ一緒に作り上げていければ幸いです。アパリまでどうぞご連絡くださいませ。また、助成金の交付を決定してくださった財団法人三菱財団には心から厚く御礼を申し上げる次第です。

ご要望に応えての第2弾！

シンポジウム 依存問題を発達障害から考える

依存の問題の背景に、アスペルガー障害などの広汎性発達障害やAD/HDなど、発達の問題を抱えている方が少なくありません。

依存の問題が顕在化する前から、学校、仕事などの継続が難しい、ほかの兄弟姉妹と比べ育児に手がかかった（かからなかった）、拘りが強い、限られた友だちとつきあう傾向がある、運動が苦手（得意な人もいます）など、発達の問題を持つ人には特徴があります。

依存の問題と発達の問題、どちらを優先させて治療をしていったらよいのでしょうか？また、どのような対応をしたらよいのでしょうか？新泉こころのクリニック院長の朝倉新先生をお迎えしシンポジウムを行います。

司法・福祉・医療関係者、ご家族などこの問題に関心のある方はぜひご参加ください。

【講師&シンポジスト】

朝倉 新 氏(新泉こころのクリニック院長)

小山 茂 氏(更生施設浜川荘主査)

高澤和彦 氏(浦和まはろ相談室代表)

日時：2009年9月27日(日)13時～16時30分

会場：横浜市健康福祉総合センター ホール

(JR桜木町駅前)

参加費：1,000円

参加申し込み不要、先着300名

問い合わせ：045-303-2621(ワンデーポート)

【主催】NPO法人ワンデーポート 【協力】NPO法人アパリ 【助成】東京都遊技業協同組合

ドラッグ・ダイヤル

最近若い人からの
大麻の相談が増えて
います

こんな質問が多いです。
「何で大麻はダメなの？」
「どんな害があるの？」
「止めようと思うんだけど
どうすればいいの？」

どうぞお気軽にご相談
ください。
(プライバシーは固く
守られます。)

電話相談は
月～金の10時～18時
：03-5830-1790

メールでの相談は随
時受け付けていま
す。
メール：info@apari.jp

アウェイクニングハウス 入寮者からのメッセージ

「終わり無き旅」

マジ

ターニング・ポイント

受刑経験のある
ダルクスタッフによる
最新の体験談
12名の体験談と漫画
体験記が載っています

Drug Addiction Rehabilitation Center

禁物依存症の回復と施設 ダルクからのメッセージ

TURNING POINT
ターニング・ポイント

日本ダルク出版 編

1,000円

ご希望の方はご住所、
お名前、電話番号をご
記入の上お申込下さい。

FAX : 03-5830-1791

メール: info@apari.jp

私は昭和37年の1月の寒い冬に港町で生まれました。親には初めての子供でとても可愛がられて育ったのです。私が物心付いた頃、私の家がヤクザの家であり、父親が組長である事に気付いたのです。私はそれがとても嫌でした。友達は親が組長で幸せだと言うけれど、私はとても人には言う事が出来ないでいました。小さい頃に抱いた、他の友達とは違う家を何時も憎んでいました。いつも友達の親と自分の親をどこかで比べている私がありました。そんな私も中学1年生になった時、中学3年生の女の先輩から電話があって、家においでよと言われ、その先輩の家へ行きました。そこで私は初めて女とシンナーをする事になったのです。

それからシンナーと女に溺れる毎日になりました。毎日が楽しくてしょうがありませんでした。そんな中学3年間を過ごしていたある日の事です。先輩から「シャブ知ってるか？」と聞かれて、話には聞いた事があると答えると、お決まりのようにやってみるか？と聞かれ、私は考える事も無く手を出していました。その時私の口から出た言葉は「こんな物は初めてだ。天にも昇る気持ちだ」と言って、そのマツタリとした余韻に浸っていました。

何をやっても時間があつと言う間に過ぎていきました。女の人とセックスをやっても気持ちがとてもいいし、長い時間セックスを楽しむ事が出来て、まるで魔法でもかかった様に時間を楽しんでいました。それからお決まりのコースです。シャブを買いに行く毎日が始まり、人や親を騙す事も平気でやったり、好きな女も裏切る毎日が始まっていました。

そんなある日、先輩が人に合わせてくれました。何時までも中途半端は駄目だと言われ、私が一番嫌いな世界に入ることになるのです。そして、兄と言う人のシャブを配達する仕事を手伝いながらクスリを毎日やってセックスに明け暮れる毎日は続いてドロドロの生活でした。食べる物も食べないでクスリを体に入れる毎日です。何時しか体もボロボロになり、寝れない日々を過ごして人を恨む事だけを覚えて、お金になる事なら何でも手を出す日々でした。

そんな時、私は初めて好きな女が出来てマジ愛しました。それが身ごもって女の子が生まれて、私もシャブをやるのを止めようとして、しばらくはシャブが止まっていたけれど、私も所詮薬中です。元に戻ってしまいました。それから坂を転がるかの様に落ちる所まで真っ逆さまでした。

自分は、はまってしまったクスリを人に売る事をはじめ、面白いくらいお金が手に入りました。欲しい物は何でも手に入り、綺麗な女も手に入り、毎日が天国でした。だけど、人にはとてもやっかまれていました。所詮シャブ屋がと言われて、その言葉で私はスイッチが入り、止めようかと人に相談した事もありました。ですが、仲間にそう言う人間も居なければ駄目だと言われて、その世界から足を洗うことはしませんでした。

人は人だと割り切って私はクスリを毎日売って売って売りまくりました。だけど女には悟られないように生活をする事がとても辛かった日々もありました。子供とあまり遊んでやる時間も無く、私は子供の寝顔を見ては謝る日々も数々ありました。

何時も生活の為と心の中では言い聞かせては、何時しか一人ボッチになって行く自分がいました。家に帰っても私の居場所は何時しか無くなっていました。女の事を疑い、他に男が居るわけでもないのに私は自分の勘繰りから、愛する人まで信じられない人間になっていました。それがシャブのせいであると言う事は始めは私もハッキリとは分かっていませんでした。

そんな日々を繰り返していた時に私は愛する女も子供も全部捨てて一から出直す事を決めて家を出たのです。手持ちのお金のたったの200万円を手にとって一人暮らしをスタートさせたのです。初めはうまく行くと意気揚々と思っていたのですが、一人で住む家に帰る事がこんなに寂しいこととは初めて知りました。そのことでクスリを打つ量も前より数倍になって日々自分が壊れていくスピードが早くなって行きました。だけど、それをどうする事も出来ない私でした。気が焦ってはいるけどもまだ行けると思い込む。馬鹿な考えを持っている自分を止める事は出来ませんでした。やけくそな人生を送る日々は続き、何時しか人を避けて生きていました。

そんな時に私は心の中でクスリを止めようと言う気持ちになり、今から4年前に地元の施設に行き、本当に止めようと思って施設生活がスタートしました。

初めは右も左も見えないで仲間の後をくっついて行くだけでいっぱいいっぱいでした。クスリだけやらなければいいと思っていました。だけどそれだけでは自分を変えることが出来ないと気が付くまでに時間が人の倍、道のりはとても長かったです。

自分の問題と向き合って生きるという作業を今までした事のない私はとても大変でした。今まで社会で好きな事を考える事も無く、行動をしてきた私が人の中で生活をする作業はとても苦痛であって、いっそ逃げ出したいと思った日が毎日あります。その気持ちを押し殺しての生活の中で1回2回のスリップではなく、七転八倒でした。

だけど、今はこの一番嫌な所で生活をする日々の中でクスリが止まっている事は奇跡かもしれないけど、私の人生の中で悔いある事が無い人生にする為に、日々協力し合って、自分の道を行ける日が来る事を夢に見てクスリ無しの生き方をしていきます。

緊急告知！！

6月より始まった第4月曜日の家族教室は、8月で終了いたしました。
第1、第3月曜日の家族教室は従来どおり行っています。

国際協力活動 IN フィリピン

本年5月よりJICA（国際協力機構）との国際協力活動「マニラ市貧困層における薬物依存症者に対する回復支援推進事業」が本格的に始まりました。そのプロジェクトの一環として、9月4日から2週間本邦研修が行われます。マニラにおいて中心的に活動するコアメンバー5名のうち、3名を招聘し、日本で研修を受けてもらいます。この研修では、現地でアパリミーティングを開くにあたり必要なスキル（運営方法、会場の確保、メンバーの集め方、ファシリテート・スキル等）を学ぶことを目的としています。招聘するコアメンバーは、クリーンが3年以上の男性NAメンバーです。研修・宿泊会場は、前半が上野にある日本ダルク、後半が群馬県藤岡市にある日本ダルク アウェイクニングハウスになります。後半からは、ファミリー・ウエルネス・センター代表のリッチー氏もお招きし、研修に参加してもらう予定です。次号では研修の様子をお伝えします。

本邦研修スケジュール 2009/9/4～17

		午前	午後	夜
9/4(金)			13:30成田空港到着	NA参加
9/5(土)		川崎ダルクフォーラム参加 川崎ダルク見学		NA川崎
9/6(日)		OFF (都内観光)		
9/7(月)	上野	日本ダルク見学	東京ダルク見学	家族教室参加
9/8(火)		山谷見学	ディスカッション	NA参加
9/9(水)		ディスカッション	ディスカッション	英語NA参加
9/10(木)		日本ダルクデイケア参加	藤岡へ移動、施設見学	NA参加
9/11(金)		ワークショップ「ヨガ・瞑想」	ワークショップ「リカバリーダイナミクス」	NA参加
9/12(土)		ワークショップ「リカバリーダイナミクス」		NA参加
9/13(日)	藤岡	ワークショップ「リカバリーダイナミクス」	ワークショップ「HIV等感染症について」	
9/14(月)		ダルクプログラム参加&バーベキュー		NA参加
9/15(火)		今後のプロジェクトの展開について、振り返り		山梨へ移動
9/16(水)	山梨	山梨ダルク見学	河口湖	NA河口湖
9/17(木)		河口湖	成田空港へ移動	19:30空港出発



5月にマニラで行われたコアメンバーの面接風景



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

アパリ東京本部

〒110-0014
東京都台東区北上野2-2-2
電話：03-5830-1790
FAX：03-5830-1791
Email：info@apari.jp

アパリ藤岡研究センター

(運営：日本ダルク アウェイクニングハウス)
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番地
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313

【入寮条件】

- 1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
- 2、男性(年齢制限なし)

【入寮期間】

基本的に13ヶ月

【入寮費】

月額16万円(初回17万5千円、生活保護の方も可能)



ホームページもご覧ください
<http://www.apari.jp/np/>

発行者：近藤恒夫
編集責任者：志立玲子
平成21年9月1日発行
定価 1部 100円

<アパリの司法サポート>

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

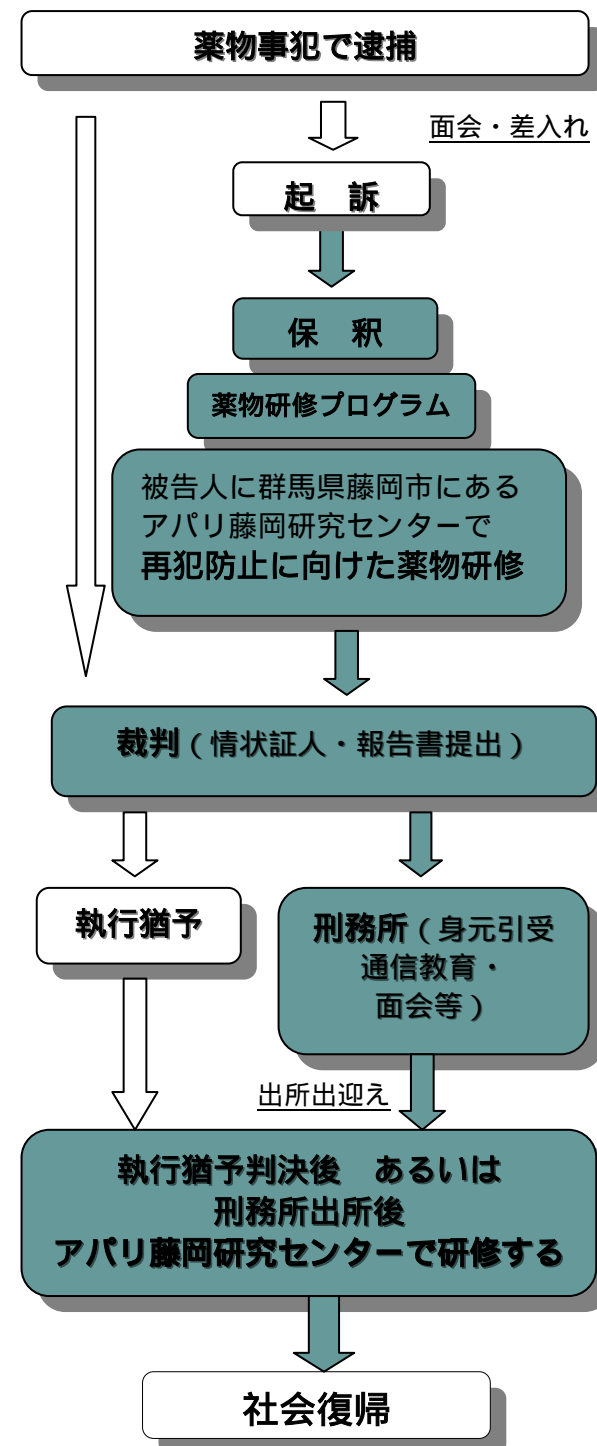
薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、**はじめて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本における薬物事犯の再犯率は50%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は**5%以下**です。最近では特に、**受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

[費用：コーディネート料として一律20万円。但し、東京以外の地域は交通・宿泊費の実費が必要です]

【お問合せは東京本部まで】

アパリの支援



<アパリ・家族教室>

日時	テーマ	ファシリテーター
9月7日(月)	怖れを手放す	町田 政明
9月21日(月)	私は私、他人は他人～自分を生きる～	町田 政明
10月5日(月)	振り回される私	町田 政明
10月19日(月)	止めさせようとしな	町田 政明

第4月曜日は諸般の事情により中止になりました。

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者
【日時】第1・第3月曜日18：30～20：30(祝日も開催します)
【場所】アパリ・クリニック上野2階 【参加費】3,000円(2名の参加は4,000円になります)
【内容】ファシリテーターと家族との分かち合いを行います。【予約】不要です
【お問合せは東京本部まで】

<個別相談・カウンセリング>

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族・本人など 【料金】45分 9,000円
【場所】アパリ東京本部 【カウンセラー】町田政明[元神奈川立せりがや病院勤務、ホープヒル代表、寿アルク理事] 【予約】アパリ東京本部 03-5830-1790【注意事項】当日のキャンセルや変更の場合は全額いただきます。【お問合せは東京本部まで】